

⑱ 公開実用新案公報 (U)

昭63-128466

⑲ Int.Cl.

G 01 P 13/00
G 01 F 1/26
1/26
G 01 P 5/02

識別記号

厅内整理番号
C-6818-2F
6818-2F
A-6818-2F
6818-2F

⑳ 公開 昭和63年(1988)8月23日

審査請求 未請求 (全3頁)

㉑ 考案の名称 液流検知器

㉒ 実 頼 昭62-20553

㉓ 出 頼 昭62(1987)2月13日

㉔ 考案者 丹羽 小三郎 愛知県名古屋市昭和区八事町43-8-101

㉕ 考案者 脇田 尚正 愛知県名古屋市瑞穂区高辻町14番18号 日本特殊陶業株式会社内

㉖ 考案者 青木 秀治 愛知県名古屋市瑞穂区高辻町14番18号 日本特殊陶業株式会社内

㉗ 出願人 大同メタル工業株式会社 愛知県名古屋市北区猿投町2番地

㉘ 出願人 日本特殊陶業株式会社 愛知県名古屋市瑞穂区高辻町14番18号

㉙ 代理人 弁理士 松浦 喜多男

㉚ 実用新案登録請求の範囲

(1) 緊手管に、圧電変換器を、その端部が管路を横断状に突出するようにして保持し、

さらに管壁の、該圧電変換器の取付基端部周囲に、該基端部の流れ方向への湾曲を許容する座ぐりを形成したことを特徴とする液流検知器。

(2) 前記圧電変換器が二枚の圧電素子板を貼着したバイモルフ構造よりなることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項記載の液流検知器。

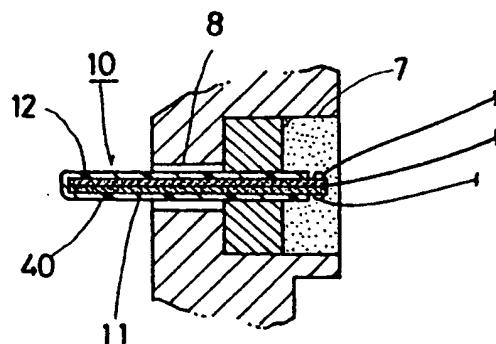
図面の簡単な説明

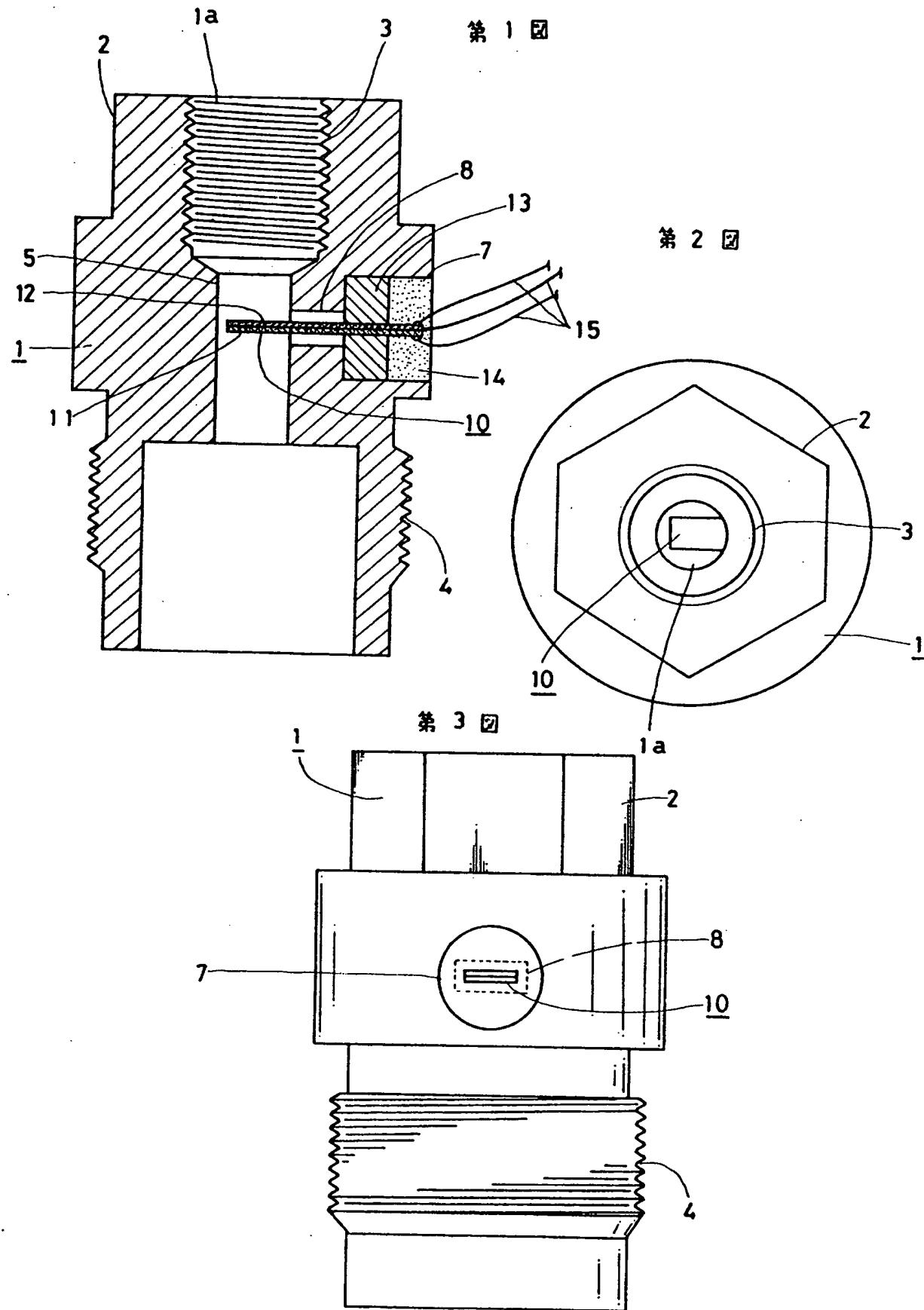
第1~3図は本考案の第一実施例を示し、第1

図は縦断側面図、第2図は同平面図、第3図は同側面図、また第4図は第二実施例の縦断側面図である。さらに第5図は他例のバイモルフ構造の圧電変換器10の縦断側面図である。

1；締手管、1a；管路、5；ベンチュリーハー、7；装着孔、8；座ぐり、10；圧電変換器、11；基板、12；圧電素子板、13；鍔板、14；エポキシ樹脂、20；締手管、20a；管路、23；流入路、24；開口端、25；流出路、26；開口端、27；嵌凹部、28；蓋体、29；空孔、30；圧電変換器、32；座ぐり、40；樹脂モールド。

第5図





第4図

